[事案 2024-39] 新契約取消請求

・令和6年11月22日 裁定終了

<事案の概要>

募集人の誤説明を理由に、契約の取消しを求めて申立てのあったもの。

<申立人の主張>

令和5年3月に代理店を通じて契約した医療保険（契約①）と介護保険（契約②）について、以下等の理由により、契約を取り消して既払込保険料を返還してほしい。

- (1) 募集人から、現在の代理店に転職したので、同じような保険に入り直してほしいと言われたため、それを了解したが、依頼していた保険料と違う金額で契約①②を契約させられた。
- (2) 自分は募集人の母とも知り合いであって、付き合いが長いことから募集人を信用していたため、募集人に対しては、契約①②の説明はしなくてよいと言った。
- (3) 契約①の申込書類にある署名は、自分のものであるが、契約②の申込書類にある署名は、自分のものではない。募集人からタブレットを示されたので、1回は署名をしたと思うが、何回も署名をしたかどうかは覚えていない。
- (4) 保険料が高額になっていたことに文句を言ったところ、募集人は「私が聞き間違えたかもしれない」と述べて非を認めていた。

<保険会社の主張>

以下等の理由により、申立人の請求に応じることはできない。

- (1) 申立人から、「他保険（申立外契約）を解約するので、解約する保険に払っている保険料の範囲内で新たに生命保険を提案してほしい、内容については募集人に一任する」と言われたため、募集人は、申立人の希望を確認した。
- (2) 募集人が契約①を提案することにしたのは、従前から、申立人に対し、保険の見直しをするなら新たな医療保険に入ることを勧めており、申立人の了解を得ていたからである。また、契約①に加えて契約②を提案することにしたのは、申立人が独身であり、介護が必要になった場合に備えておく必要が高いと考えたからである。
- (3) 募集人は、持参した設計書およびパンフレットを使用して、契約①②の提案を行い、保障の内容や保険金額等について説明した。募集人の提案を聞いた申立人が、申込みを希望したので、募集人は、再度、保障内容や保険料を説明し、ご契約のしおり・約款を用いて重要事項を説明した上で、パソコン端末を用いて、申込手続を行った。

<裁定の概要>

1. 裁定手続

裁定審査会は、当事者から提出された書面にもとづく審理の他、契約時の状況等を把握するため、申立人および募集人に対して事情聴取を行った。

2. 裁定結果

上記手続の結果、申立人の請求は認められず、その他保険会社に指摘すべき特段の個別事情も見出せないことから、和解による解決の見込みがないと判断して、手続を終了した。